

リーディングDXスクール事業【実践事例】

佐世保市立中里中学校（長崎県）

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」（自己調整力を高める授業）

◇授業において、生徒が学び方や学習材を自ら選ぶ学びの時間を設ける。

・文房具としての**タブレット**を、**学習の選択肢の1つと捉える**。タブレットが必要な時にすぐ使える環境・状況をつくる。

【学び方】

- ・ひとりで学ぶ（個別）
- ・みんなで学ぶ（協働）
- ・先生と学ぶ（一斉・個別）

【目指す生徒の姿】

- ・自分の学びを深めるために、様々な学び方に挑戦する。
- ・自分に適した学び方を発見したり、課題によって学び方を変えたりする。
- ・他者の学び方を参考に、自分の学び方を変容させていく。（自己調整力）

【学習材】

- ・教科書＋ノート
- ・ワーク
- ・プリント
- ・**タブレット**
 - ・デジタル教科書
 - ・学習ドリル
 - ・学習サイト
 - ・学習動画（YouTube等）※B-3
- ・持ち込み教材

【生徒の変容】

- ・年度当初は、自分の活動を自分で決めることに慣れず、教師のすすめや周りに倣う生徒が多かった。
- ・教師が各学習材の特徴を繰り返し紹介するうちに、自分の特性や内容の難易度に合わせ、理由をもって選べる生徒が増えてきた。



【教師の変容】

- ・自由度の高い活動で生徒が生き生きと試行錯誤する様子を見て、「教師がいかに教えるか」以上に「生徒がどう学ぶか」を軸に据えた授業づくりの必要性が高まった。